



「高齢者福祉施設（特養）を活用した子どもの夜の居場所づくり」

●話題提供者 特別養護老人ホーム カーサ月の輪 施設長 日比 晴久 さん

「生きづらさを抱える世帯の子どものための居場所」

フリースペース 2015年から10年間で県内21か所

【子どもも地域も笑顔に】

- ・遊ぶ&食べるイベント（夏休み）
- ・カーサde学ぶ（学習支援の居場所）
- ・カーサ・サファリパーク（毎年5月）
- ・花火鑑賞&ピアガーデン（びわ湖花火大会の日）

【毎週火曜日】

- ・子どもたちをデイサービスの車で迎え
- ・宿題したり遊んだり。

施設は広くて最高の遊び場！

学校では遊べていない子も一緒に遊ぶことができる。

- ・一緒に施設のご飯を食べる。時には一緒に作ることも。
- ・広い施設のお風呂に職員と一緒に入る。

大人と話しをする大切な時間。

色んなことに気づくことができる。（ネグレクト、虐待、衛生面）

- ・自宅まで送る。

自分自身が子どもの頃、こういう場所があったらな…という思いがあった。学校に行けていない子どもの何かの「つながり」になれば…という思い、地域貢献の思いで活動している。

フリースペースは、会いたいから来てくれる、会いたいからしている。本当の子どもの姿を見せてくれている。毎週火曜日に迎えに来るということが、子どもたちの安心感になっているのでは。

参加している多くの世帯に共通していたことは、地域社会からの孤立。地域にとって身近に必要な施設になるために、地域住民と一緒にニーズに合わせた支援を考え、施設の機能とマンパワーを活かした居場所づくりの実践を重ねることで、身近な必要な施設に。

「ここにカーサがあって良かった」と言ってもらえるために。

子どもは少しずつでも変わる

人を思いやることができるようになった・・・等々

この先どうするか

仕事をもって、家庭をもつ姿を支えていきたい
仕事することに寄り添いたい



9月のワーキンググループ会議は、特別養護老人ホーム カーサ月の輪の日比さんに「高齢者福祉施設（特養）を活用した子どもの夜の居場所づくり」について話題提供をしていただきました。

活動の内容や、子どもたちの様子などをお話しいただきました。子どもたちに愛情をもって接していただけることや、子どもたちに会いたいから続けているということが、とても伝わりました。

参加者の声

- ・長く続けてこられた秘訣は？→子どもが好きだから。自分もしんどい時期があったからというものもある。
- ・日比さんが体調不良の時どうしているのか？→一人ではなく、みんなで力を出し合えるようにしている。体調不良にならないように、無理せず休ませてもらっている。他に人がいないのが課題だが、この活動をしているから、ここに働きに来たという子もいる。誇りをもってやってくれているので、この活動をやる意味はあるのかな。
- ・想像以上にハードな取り組み。もう少しハードルが低いことならできるかな。
- ・始めるのにも勇気がいるが、10年間続けたのがすごい。
- ・子どもの心が保たれている大事な居場所
- ・親として気づきになり、勉強になった。
- ・こういうことを自分から取り組む人が増えて欲しい。日比さんの人柄で今があるのでは。
- ・地域の課題を知っていくことが大事。
- ・10年間で子どもが社会性を得ていったことが非常に大きな経験。
- ・地域の中で見られない人たちに手を差しのべられることが非常に素晴らしい。
- ・10年前こういう制度も何もなかったところで作り上げてこられたことが素晴らしい。
- ・通っていた子どもが大人になってからも付き合いがあることに驚いた。
- ・本業もあるなかで、どうやってやっていくかは踏み出せないポイントではある。



医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s-higa.jp

【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和7年12月18日（木）18:30～20:00

○場所：滋賀県庁新館7階大会議室（Web可）

○テーマ：「(仮題) 困ったときはお互いさま！住民同士のたすけあい」

○話題提供者：特定非営利活動法人 元気な仲間

代表理事 谷 仙一郎 さん